

栃木県眼科医会理事会だより(平成21年度第5回)

日時：平成22年1月20日(水) 午後7時より

場所：宇都宮市医師会館

出席：宮下会長、原(裕)、旭副会長、木村、大久保(彰)、大野、吉沢(徹)、城山、苗加、福島、上田、大沼、井岡、斉藤(春)、高橋、斉藤(哲)、堤理事、松島(雄)監事、柏瀬、斉藤(武)、茨木顧問 計21名

欠席：落合(憲)、小幡、牧野、松島(博)理事、鈴木(隆)監事、稲葉(光)、早津、田口、佐藤、妹尾顧問 計10名

[会長挨拶]

あけましておめでとうございます。さて、日眼医代議員会の報告にも出てきますが、平成22年診療報酬改定について、眼科はかなりよくない状況にあるようで、現在、三宅会長他執行部がそれに対応しているようですが、あまりいい話は聞こえてこないようです。また、日医で出してきた生涯教育プログラムにも問題があると思われ、後でご協議いただきたいと思えます。それではよろしく申し上げます。

[総務]

報告：1. 日眼医代議員総務経理合同常任委員会出席報告(1月17日(日)東京グランドホテル)

原(裕)副会長が出席。三宅会長の挨拶として、政権が代わり、政府も医療費のどこに多く出資したらよいかよくわからない状態であり、その中で眼科医療費が高過ぎる、という論調があり、角膜曲率半径、屈折、矯正、精密眼圧の4つをまるめにするという案がある。これにより200億円の削減を試算しているそうだが、これが眼科医療にとっていかに理不尽であるかをいろいろなルートで訴えている。ただ、医療科、中医協、マスコミ、日医、民主党など、どこに行っても今までと違いレスポンスが悪く、交渉の割に実があがらない印象である、との事。

日眼医としては、この数年の間組織改革の三本柱として、1. 有用な情報の構築、2. その情報の収集、伝達、管理、3. 重要な関連団体である日本眼科学会との情報の共有と共同作業、を掲げ活動してきた。平成22年度も、この方針に沿って以下の重点事業を行う。一つめは創立80周年記念関連事業、二つめは新公益法人制度への移行にともなう適応について十分検討すること、三つめは平成24年度の診療報酬改定に対応する議論を日本眼科社会保険会議・社会保険委員会等で本年度より開始する事、である。

その後、平成22年度事業計画案、予算案が提出され、承認された。

2. 当会顧問 佐藤幸裕先生(自治医大)の母上(義母)・小玉伊都子様(91歳)ご逝去(12月22日(火))

役員にFAX連絡

- 協議： 1 . 平成21年度第 2 回関プロ支部長会議、関プロ連絡協議会の出席者と提出議題
(3月7日(日)横浜市ホテルキャメロットジャパン)
宮下会長、原(裕)副会長、早津、柏瀬、稲葉(光)顧問が出席予定。
提出議題は日医の生涯教育問題、および22年診療報酬のまるめ改定についての
対応、を予定。
- 2 . 栃眼医会則、施行細則第 3 章第 2 項「 20年以上の会員で80歳以上の会員を永年
会員として表彰」の件
今まで日眼医からの表彰状のみをお渡ししていたが、今後は会則どおり栃眼医
として表彰状、及び記念品をお渡ししたい。対象者は久保田芳雄、田口太郎、
田島幸男、矢尾板栄子各先生の他、これまでお渡ししていなかった先生方も含
める予定。
- 3 . 平成21年度栃眼医会務報告案作成の件
草案を提示し、理事会で検討を加えた。今後総務が 3月までに完成させる予定。
- 4 . 平成22年度栃眼医事業計画案作成の件
草案を提示し、理事会で検討を加えた。今後総務が 3月までに完成させる予定。

[経理]

- 報告： 1 . 栃木県小児眼科講習会会計報告
収入：会費(A 21名、B 28名、C 2名) 150,000円
支出：講師御礼 60,000 + 100,000 = 160,000円、お車代 30,000円、
合計 190,000円
差額の 40,000円を一般会計から補助。
- 2 . 平成21年度栃眼医忘年会収支報告
収入：会費(A 21名、B 28名、C 2名、コメディカル33名、業者8名) 335,000円
支出：グランドホテル支払い 491,106円、振込手数料 210円、合計 491,316円
差額の 156,316円を一般会計から補助。
- 3 . 第42回栃眼医研究会収支報告
収入：会費(A 27名、B 17名、C 3名) 136,500円
支出：講師御礼 100,000 × 2 = 200,000円、お車代 30,000 × 2 = 60,000円、
合計 260,000円
差額の 123,500円を一般会計から補助。

- 協議：1. 栃木県アイバンク募金箱の集計作業
参天製薬、千寿製薬の協力で、2月から回収を始める予定。
2. 平成21年度栃眼医決算報告案作成の件
次回理事会までに3月までの途中経過報告を予定している。
3. 平成22年度栃眼医予算案作成の件
次回理事会までに3月までの途中経過報告を予定している。

[学術]

- 報告：1. 栃木県小児眼科講習会について（11月29日(日)千寿、参天製薬と共催13:00～16:10 宇都宮グランドホテル）
A21名、B28名、C2名、コメディカル33名、計84名が参加、盛会のうちに終了。
2. 総合医会開催打合せ及び生涯教育委員会合同会議開催報告（12月3日(木)栃木県医師会全理事室）
宮下会長が出席。昨年9月に日医から、総合医の計画を取りやめ、新たに生涯教育制度を改正し平成22年度から実施する、という突然の報告があった、との事。それによると、申告者は84項目に分類されたカリキュラムコードの中から単位を取得し、一年毎に生涯教育単位取得証の交付を受ける。その上で連続した3年間の合計単位が30単位、かつカリキュラムコードが30コード(同一の取得コードは1コードとする)に達した者に、3年間有効の認定証を発行する、というもの。眼科医にとっては専門分野以外の負担が大きい。
その他、第50回栃木県総合医学会を6月20日(日)にとちぎ健康の森で開催する予定。シンポジウムとして『新型インフルエンザの流行と対応を振り返って』、基調講演として『医療が立ち直るには』、その他ポスター発表を予定。
2. 第42回栃眼医研究会開催報告（科研製薬と共催、1月15日(金)宇都宮グランドホテル）
「最新の屈折矯正手術について～LASIKからCKまで～」
坂西義彦先生（坂西眼科医院院長）
「手術における癒し」
志和利彦先生（日本医科大学眼科教授）
47名が参加、盛会のうちに終了。
- 協議：1. 第20回下野栃木談話会の開催の件（獨協医大、万有製薬共催、当会后援、3月19日(金)小山グランドホテル）
特別講演：「眼内レンズの最新情報～トーリックIOLと多焦点IOLを中心に～」
根岸一乃先生（慶応大学医学部眼科准教授）

2. 第59回栃木県眼科集談会開催の件(4月11日(日)自治医大)
詳細は未定。
3. 第18回栃木眼科セミナー(自治医大、興和創薬共催、当会后援)の件
10月上旬に予定。特別講演：太田一郎先生(眼科三宅病院)他1題。
4. 第43回栃眼医研究会の開催の件
毎年6月末に開催していたが、今回は学会、専門医試験と重なるため6月11日、
または7月2日に予定。
5. 「日本医師会生涯教育制度」について
84項目に分けられたカリキュラムコードの内容が多岐にわたっており、流早産
や便通異常に至るまで、眼科医に必要なものかどうか、また、3年間連続した取
得単位が30単位にならない場合、認定証は発行されず、過去の取得単位が消え
てしまう等の問題がある。申告書の記入も複雑でカリキュラムコードなどがわ
かりにくい。現在のところ、認定証は会員資格に必須ではないが、実施方法等
について県医師会に問い合わせを行っていく予定。

[医療安全対策及び福祉]

- 報告：1. 栃眼医忘年会開催の件(11月29日(日)栃木県小児眼科講習会終了後 宇都宮グ
ランドホテル)
今年は栃木県小児眼科講習会終了後に、16:30より開催、盛会のうちに終了。
2. 平成22年度春のゴルフ大会開催の件
開催日：平成22年4月29日(みどりの日)
場 所：唐沢ゴルフ倶楽部唐沢コース
スタート時間：午前9時頃の予定

[保険]

- 報告：1. 健保研究会開催報告(11月21日(水)宇都宮市医師会館)
保険審査委員全員と健保担当理事が出席。会員からの質問はなかったが、最近
の審査状況についての報告を行なった。インスタントフィルムの請求はそろそ
ろ過去に生産された製品自体の保存期限が切れてくるので注意されたい。また、
20才以下の屈折病名のための初診患者に対する眼圧測定は不可である、等。
2. 「薬価基準の追補収載について」日眼医より送付(12月11日(金))
バンコマイシン眼軟膏1%(東亜=日東メディック) 薬価5,036.90円 グリコペ
プチド系抗生物質製剤

3. 全国有床診療所連絡協議会より総会の開催報告書送付

吉澤理事が報告。第22回全国有床診療所連絡協議会総会が、平成21年8月1日・2日にホテル日航熊本で開催され、入院基本料の全体的引き上げ、看護配置基準の見直し、入院時医学管理加算の新設、病床規制の撤廃等が要望事項として議決された。これらの問題は、その後8月30日の衆議院選挙とその後の政権交代により先行き不透明な状態となっているが、今後眼科有床診療所問題とも関わってくるものと思われ、注目していきたい。

[広報]

報告：1. 栃眼医ホームページ作成の経過報告

現在、<http://www.tochigan.org/> で公開中で、ほぼ完成した形となっている。今後、会員に対し開設のお知らせの送付と、会員専用ページにアクセスするためのID、パスワードの登録手続きを行う。現在、会員専用ページには理事会便り、一次救急当番表、親睦行事、眼科医会の記録が掲載されているが、今後さらに整備を進める予定。

2. 栃眼医報43号に掲載する随筆、エッセイ、執筆依頼について

次回理事会までに執筆者を推薦する。

協議：1. 関プロ会報(No39号)の掲載記事

栃眼医報42号の随筆(吉沢浩子先生)を転載する。

[公衆衛生]

協議：1. 「目の健康講座」の日程、会場、講師および演題について

平成22年10月3日(日) PM1:00～5:00 宇都宮市健康センター(ララスクエアビル9階)を会場に予定し交渉中。

2. 栃木県眼科一次救急について

当番医師がアクシデントで勤務できなくなった時の対策については、間に合う限り次回の当直者に連絡し代わってもらおう。都合が悪い時は順送りで次の当直者に連絡をする。極めて緊急時の場合は未だ今後の課題である。

現在平成22年9月20日までの当番医が決まっているが、それ以降の当直医を新たに決める必要がある。現在のところ、公平を期すために4月11日の総会で何らかの抽選方式で順番を決める事を考え、討議中である。

[医療対策]

報告：1. 平成21年度栃木県C L販売管理者継続研修会開催報告(12月6日(日)とちぎ健康の森講堂)

91名が出席し盛会のうちに終了。支出は188,990円で昨年と合わせ17万円程度の
残余金がある。

2. 「SCL用消毒剤のアカントアメーバに対する消毒性能について」日眼医より送
付（12月16日(水)）

SCL使用者に対し、1)レンズ脱着時の手指の洗浄、2)レンズのこすり洗いの
徹底、3)レンズケースの定期的な交換、4)眼とレンズの状態の確認のための定
期的な検査の推奨、5)不適切な使用による感染の危険性等、使用者に適正な使
用を促すための情報を見やすい位置にわかりやすく明示する等の注意喚起を行
うこと、などにより、適切な使用方法の教育・啓発をさらに徹底することをお
願いたい。

協議：1. 平成22年度栃木県CL販売管理者継続研修会講師について
自治医大眼科 小幡博人准教授を予定。とちぎ健康の森
12月5日(日) PM14:00～16:00

[勤務医]

報告：1. 第15回栃木県眼科手術談話会開催の件(平成22年5月21日(金)宇都宮医師会館)
演題募集を3月下旬に送付する予定。

[日眼医連盟]

報告：1. 日本眼科医連盟交付金について
会費徴収にかかわる経費として徴収学の5%が交付された。
栃木県の交付金額は 64,000円。

次回理事会は3月17日(水)に開催する。

以上
(吉沢 徹 記)